

七五三詣

「七」・「五」・「三」という数字は、むかしから

めでたい数字だと考えられてきました。七五三の祝が一般に広く行われ始めたのは江戸時代からで、氏神様に七才、五才、三才の男女子が集まり、おまつりする
ことから七・五・三の祝というようになりました。

このお祝いは、赤子から幼児に成長していく過程でこれからは氏子として神様に認めていただき、且つ社会からも仲間として認めてもらう意味があります。医学的に見ますと、この年頃は子供の発育上の段階で、三歳で言葉を解し、五才で知恵がつき、七才で歯がはえかわるなどの最も大切な時期に当たります。今までの子供の成長を神様に感謝すると共に、これからの無事をお祈りします。

形式的ではありますが、七五三を終えて、晴れて一人前として扱われるようになった風習に由来します。
数え年・満年齢のどちらでもかまいません

三歳(男女) 髪置き (かみおぎ)

この日を境に髪を伸ばし始めました。

五歳(男) 袴着 (はかまぎ)

この日から袴をつけ始めました。

七歳(女) 帯解き (おびとき)

それまで付け紐で着ていた着物から
帯でしめる着物に替えた。

